

資料2-11 個人別研究活動判定票

【自己評価実施要項 分野別研究評価「経済学系」より抜粋】

別紙 3

- (1) 分野別研究評価「経済学系」では、対象組織の研究活動等の状況について、次に掲げる評価項目ごとに評価を行うことになっています。
 - 研究体制及び研究支援体制
 - 研究内容及び水準
 - 研究の社会（社会・経済・文化）的效果
 - 諸施策及び諸機能の達成状況
 - 研究の質の向上及び改善のためのシステム
- (2) 「個人別研究活動判定票」は、上記評価項目のうち「研究内容及び水準」及び「研究の社会（社会・経済・文化）的效果」の評価を行う上での、重要な資料として作成していただくものです。具体的には、経済学系研究評価専門委員会に、関連領域の専門家により領域ごとに設置されている「部会」において、「個人別研究活動判定票」により提出された研究業績を基に、当該研究の内容及び水準等を4段階又は3段階で判定し、その結果を、原則として対象組織の全体及び領域ごとに判定段階別の割合を示すために用います。
- (3) 「研究内容及び水準」の評価項目では、対象組織における研究活動の学問的内容及び水準の判定を、国際的視点を踏まえ、独創性、有用性、発展性、他分野への貢献、その他の申告事項について多様な側面から行います。
- (4) 「研究の社会（社会・経済・文化）的效果」の評価項目では、対象組織における教員の研究成果の社会（社会・経済・文化）的效果の度合いの判定を、経営実務への寄与、政策形成への寄与、経済・経営理論の普及・応用を目指す活動への寄与、地域との連携・協力の推進、国際社会への寄与などについて、その他の申告事項の側面から行います。

なお、社会的効果とは、教員の研究成果そのものが、社会、経済又は文化の各方面において具体的に役立てられたことを意味し、社会的活動に教員が参加すること自体による社会的貢献を意味するものではありません。ここでは、例えば、「政策形成への寄与」は、国や地方公共団体の審議会等に委員として参加すること自体ではなく、審議会等の報告書に自らの研究成果が反映した、あるいは審議会等の意思形成に当たって新しい視点の導入や議論の活性化に自らの研究成果が寄与したなど、具体的に示された効果について判断されます。
- (5) このように「個人別研究活動判定票」を作成していただく目的は、教員個々人の研究業績の内容及び水準等を判定すること自体にあるのではなく、あくまで前記二つの評価項目を対象組織全体の評価として実施する上での根拠となるデータを得ることにあります。したがって、教員個々人の研究業績の内容及び水準等の判定結果並びにその根拠となる研究業績に関する資料は、一般に公表したり、他の目的に利用されたりすることはありません。
- (6) なお、「研究内容及び水準」及び「研究の社会（社会・経済・文化）的效果」の部会における判定方法及び手順の詳細は、参考資料1（P51）のとおりです。
- (7) 個人別研究活動判定票及び代表的研究活動業績等の提出部数は、それぞれ3部ずつです。
- (8) 代表的研究活動業績等は、コピーも可とします。提出された業績・資料は、原則として返却しません。

個人別研究活動判定票

大学コード 1	該当部会コード 1	関連部会コード 1	整理NO. 2
氏名 3	所属学科・専攻名		職名
現在の専門 4	専門コード:		
	研究テーマ:		

1. 代表的研究活動業績 (平成10年度以降発表のもの)

代表的研究活動業績 5	研究内容		研究の社会的効果	
	事項	該当 6	事項	該当 7
	獨創性		経営実務への寄与	
	有用性		政策形成への寄与	
	発展性		経済 経営理論の普及 応用を目指す活動への寄与	
	他分野への貢献		地域との連携 協力の推進	
	(その他)		国際社会への寄与	
			(その他)	
	獨創性		経営実務への寄与	
	有用性		政策形成への寄与	
	発展性		経済 経営理論の普及 応用を目指す活動への寄与	
	他分野への貢献		地域との連携 協力の推進	
	(その他)		国際社会への寄与	
			(その他)	
	獨創性		経営実務への寄与	
	有用性		政策形成への寄与	
	発展性		経済 経営理論の普及 応用を目指す活動への寄与	
	他分野への貢献		地域との連携 協力の推進	
	(その他)		国際社会への寄与	
			(その他)	
	獨創性		経営実務への寄与	
	有用性		政策形成への寄与	
	発展性		経済 経営理論の普及 応用を目指す活動への寄与	
	他分野への貢献		地域との連携 協力の推進	
	(その他)		国際社会への寄与	
			(その他)	
	獨創性		経営実務への寄与	
	有用性		政策形成への寄与	
	発展性		経済 経営理論の普及 応用を目指す活動への寄与	
	他分野への貢献		地域との連携 協力の推進	
	(その他)		国際社会への寄与	
			(その他)	

- 1 大学コード, 該当部会コード及び関連部会コードは, 別添のコード表 (P41) の該当コードを記入してください。
- 2 整理NO. は該当部会コードごとに通し番号を付し, 記入してください。別添コード表に付し方を示しています。
- 3 研究活動上使用している別名を記入する場合は, 氏名の後に括弧書きで示してください。
- 4 現在の専門コードは, 別添のコード表(P42)の該当するコードを記入 (複数可) してください。また, 研究テーマについて簡潔にご記入ください。
- 5 代表的研究活動業績には, 論文, 著書, 編著書など研究活動の成果物が対象となります。なお,
「論文」の場合は, 論文名, (共同執筆の場合には共同執筆者名) 掲載誌名, 巻, 号, 発表年, 開始頁~終了頁,
または論文名, (共同執筆の場合には共同執筆者名) 掲載論文集名 (書名), 論文集編集者名,
出版社, 発表年, 開始頁~終了頁を記入してください。
「著書及び編著書」の場合は, 著書名, (共同編著書の場合には共同編著者名) 出版社, 出版地, 出版年を記入
してください。
- 6 当該業績が優れている点について, 該当欄に を付してください。複数の事項に該当する場合は, 各個所に を付してください。なお,
当該業績単位で該当する事項がない場合は, 当該業績の事項欄全体に斜線を引いてください。
- 7 当該業績が社会的効果を及ぼしている点について, 該当欄に を付してください。複数の事項に該当する場合は, 各個所に を付して
ください。なお, 当該業績単位で該当する事項がない場合は, 当該業績の事項欄全体に斜線を引いてください。

2. 代表的研究活動業績の特色及び強調点

- ・ 前頁の個人別研究活動判定票 の代表的研究活動業績について、その特色及び強調点を「研究内容」「研究の社会的効果」の事項で 付した理由が分かるように記述してください。（例えば、「～のため、独創性が高い。」）また、その根拠資料がある場合は添付してください。（研究成果が反映している報告書、新聞記事など）
- ・ 記述にあたって、研究論文等の引用頻度あるいは国際会議での招待講演等を 付した根拠として示すこともできます。また、一連の研究の総体的業績により判定が必要な場合は、その旨を記述してください。（P51, 参考資料1の1 基本的考え方(3) 参照）
- ・ 提出した論文等が共著の場合、当該業績への貢献の内容・役割を具体的・簡潔に記述してください。（例えば、主要研究担当、総括指導等担当、論文校閲担当など）

氏	名
---	---

研究活動業績一覧（平成10年度以降発表のもの）

- ・研究活動業績には、論文、著書、編著書など研究活動の成果物が対象となります。
- ・リスト作成に当たっては、業績ごとに、
「論文」の場合は、論文名、（共同執筆の場合には共同執筆者名）、掲載誌名、巻、号、発表年、開始頁～終了頁を、
または論文名、（共同執筆の場合には共同執筆者名）、掲載論文集名（書名）、論文集編集者名、出版社、発表年、
開始頁～終了頁を記入してください。
「著書及び編著書」の場合は、著書名、（共同執筆、あるいは共同編集の場合には、共著者、あるいは共同編集者名）、出版社、
出版地、出版年を記入してください。
- ・リストは、「論文」「著書」等の種類別に通し番号を付し、発表年の新しいものから順に記入してください。
また、代表的研究活動業績として提出するもの（5点以内）には、 を付けてください。

例：

- 論文 1. "Consequences of Japan's Budgetary Reforms" (. x x x x) Journal of Public Economics, Vol.45,
No.3,2002,pp.1230-1256
2. 「大学評価の経済効果」() , 『日本における教育評価：現状と展望』(x x . 編) ,
書店,2001年,pp.125-153
- 著書 1. 『研究評価と経済発展：理論と実証』 新聞出版社,2000年

- ・転勤等により研究者に前任地での研究業績がある場合には、当該前任地での研究業績も含めて記述してください。
- ・1頁で記入できない場合は、適宜頁を増やして、ご記入ください。別紙添付でも可